

日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

情報工学コース 長谷川 達人

2021年度の優秀教員に選定いただき大変光栄に思います。嬉しく思う一方で、まだまだ至らぬ点も多いため、改めて今後も精進して参りたいと思います。

実は本レポートに書くことが思い浮かばず、これを機に先生方の過去のレポートをいくつか拝読しました。様々な教育感や取り組みが伺え参考になりましたとともに、私が読んだ範囲で2点ほど共通点が見えたように思います。

共通点1は授業の双方向性の確保です。優秀教員に選出された先生の大半が、講義内の学生とのコミュニケーションを重要視しているような記述をされております。詳細は先生方の過去のレポートをご参照下さい。中でも多く採用されている作法としては丁寧な質問対応だと思われます。例えば、各講義でリアクションペーパーを課し翌週に質問へ回答するというもの、その場で学生に問いかけを行うというもの等です。私の講義でも、毎回1つ以上の質問入力を促し、翌週までに回答一覧を提示するようにしています。今回の選出にあたり、学生が回答した選出理由欄を読ませていただきましたが、大部分が本件（質問回答が丁寧）もしくは授業がわかりやすいというものでした。以上より、丁寧な質問対応ないしは授業内での適切なコミュニケーションは優秀教員選出の重要なファクターであると思われます。

共通点2は板書及び学生のノート記述を重要視されている点です。板書ないしはパワーポイント等を活用しつつも、学生に講義ノートを書くこと、考えさせることを重要視されているように感じました。実は私の講義はこの真逆で、資料は全てパワーポイント（板書なし!）かつWeb上で配布し、講義内でノートを取らせることもゼロです。あくまで私の考えですが、せつかくの限られた授業時間ですので、わかりやすい説明や補足的な知識の教示、そして雑談に時間を割きたいと思い、学生側は聞くことに集中できる環境を提供しています。なお雑談自体に教育効果は期待していませんが、私の話を聞くことに対するモチベーションを上げる効果を期待しています。ただし、この教育効果に関しては評価改善する必要があるように思いましたので、今後検討していきます。

上記以外にも様々な工夫をされていらっしゃる先生が多く、自身の講義も改善を継続しようと再認識いたしました。

最後になりましたが、本賞を受賞できましたことは、様々な支援を頂いた学科を始めとする周囲の皆様のご助力のおかげです。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。